

やぶやぶにゆうす

春号
保険のコンサルタント
0120-082-313

東京海上日動火災保険(株)
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
メットライフ生命保険(株)
日本生命保険相互会社
オリックス生命保険(株)
損害保険ジャパン日本興亜(株)
AIG損害保険(株)
Chubb損害保険(株)
FWD富士生命保険(株)
ソニー生命(株)

編集・発行:(株)大藪保険コンサルタント(有)やぶライブ ランキング 〒167-0032 東京都杉並区区沼3丁目2-6 トヨタビル2F TEL.03-3392-6765 FAX.03-3392-6793

負けねえぞー！

「コロナには！」

昨年は新型コロナウイルスに振り回された一年でした。さらに緊急事態宣言も1都2府7県には3月7日まで延長され、過料等の罰則が設けられたことにご承知の通りです。とにかく人の動きを止め、少しでも変異型や新型コロナウイルスの被害を食い止めることが重要だと思えます。観光・飲食等のサービス業やその関連業の痛手は皆様には十分ご認識されていると思います。

一方、弊社の得意分野である音楽・イベント業界も大変です。コンサートやフェスティバルの規模の縮小や無観客配信に。無観客になるとスピーカー等の設置はしないので、その分の設備が減るのにもちらんのこと輸送する運送トラックも少なくなりま。さらに音楽の著作権を管理する会社(音楽出版社)もカラオケの休業等で半年以上前の印税が止まったままです。目に見えないいろいろな業界に多大な影響が出てきています。でも、こうした方々は売上減でもなんとかならん張つています。ワクチン効果の期待を含めて、そろそろ明日への希望の道を図りたいと思います。

負けねえぞー！コロナ あの震災から十年も

NEW WORLD
NEWSOLUTION
NEW RISK

あの震災から十年も

それにしてもうこういう災厄の時こそ公金で十分な保障をする。しっかりとサポートするのが国・行政と考えます。その後は時限立法で増税(回収)も視野にいれてもいいと思います。何よりも国会議員等の報酬を一時下げることも検討して頂きたいと思えます。

時限的な税に復興税があります。そう、あの震災から早くも十年になろうとしています。私の故郷、釜石で一年にはワールドカップラグビーも開催されましたが、このスタジアム維持費に年間4,000万円かかるそうです。人口3万人を切るとうす。市には負担でしょうね。復興住宅や高速道路等のハードは出来ましたが、人口流出の中で小さくても光るソフト面の復興が必要になると考えます。

特に、福島の大震災やタングの汚染水を海洋へ放出する計画。その後に来る魚貝類等の放射能汚染問題等、十年たっても解決の糸口さえ見つけられない状況だと思えます。ただ南相馬で見た、再生可能エネルギーの活用やロボット開発など先駆けた新産業の街づくりには期待を持っています。コロナが落ちついたら、今年こそは現地に入りお金を落とすつもりです。東北へ熊本へ、ぜひおいでんせ！皆様からのご支援をお願いします。

昨年の九州の大洪水だけでなく、首都直下型地震もいつ起きてもおかしくありません。自然災害の巨大化の傾向は益々大きくなっていると思えます。予防を含め非常食や家具固定等の準備をしつかり確認して、コロナ禍で出歩けない中では、家族や会社で万一の時の連絡先をしつかり構築できるいい機会です。コロナ禍で新しい生活様式が求められています。その変化の大きさとスピードは激しくなってきたかと思えます。それに対応できるように弊社もお客様の不安や質問に答えられる。保険の知識をしつかり身につけて、リスクを的確に提案できる。さらに罹災の時は事故の支払いのサポートをしつかりする。その態勢整備のいい機会と考えています。

半藤一利氏の 訃報に接して

「日本のいちばん長い日」の権威である「歴史探偵」と半藤先生が1月12日に亡くなられた。歴史好きの私は先生のほとんどの本を読んでいたつもりだがシヨックである。私が文藝春秋社に出したファンレターに、一昨年の5月先生からの返事を頂いた。「やぶやぶニュース」を同封しての先生との世田谷のご自宅との文通がはじまった。私の質問への回答や軽妙な語りとユーモアあふれるご返事を何度か頂くことができた。コロナが落ち着いたら歴史探偵見習として歴史の旅をしよう！ご冥福をお祈り申し上げます。

「御救金」や「御救米」 江戸時代にもあった「持続化給付金」

江戸時代にも「持続化給付金」があったのをご存じですか？ 当時もインフルエンザやコレラ等のパンデミックがありました。その際には人と接触しないこと！ 出歩かないようにと。江戸の町の日稼ぎの者、職人等を対象に約銭300文(かけそば一杯16文)を当座の生活用に支給しました。それが1802年には約30万人に一週間で届けたというので驚きです。その後銭でなくお米だったりしましたが今の政府より迅速に行動していますね。

えっ？ どうやって人々に渡したの？ パソコンも無い、携帯もない、それなのに早い対応とは？ 江戸幕府は町奉行の指示で町会所を通じて病気や生活困窮者に陥った人々を給付金で支えたのです。「御救金」や「御救米」と呼ばれる救済活動です。有名な松平定信の寛政の改革です。

町奉行所が「困窮者名簿」を作製して各地区の名主たちに名前の報告を求めたというものです。

余談ですがこのような「災厄」の中社会活動全般が大きな制約を受けた事も記載がありました。芝居興行、蕎麦屋、鰻屋等の外食、呉服屋、風呂屋、遊郭等の客商売が打撃を受けたとも、今のコロナ禍に重なりますね。

江戸幕府けっこうやりますね、令和幕府？ も頑張ってくださいたいものです。



半藤先生との交流、よくぞ文藝春秋が先生に届けてくれた、またよくぞ先生が一介の読者に礼状を書いてくれた、お人柄がかいま見えます。その事実に編集長いたく感心しました。

半藤先生から頂いた実際のお葉書です。一生のお宝です。大切にさせていただきます

